

横浜市立中学校長・校長代理様  
横浜市立義務教育学校長様  
社会科担当者様

横浜市立中学校教育研究会  
社会科部会長 山下 昌永

# 浜中社だより

第1号

## 〇会員の皆様をつなぐ情報便に

社会科部会長 山下 昌永

日頃より浜中社の活動にご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の影響から、今年度の研究総会は書面総会として実施させていただきました。皆様からの賛同をいただき、今年度も会長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3か月にわたる一斉臨時休業の影響で、欠損した学習時間を取り戻すために、各校ではさまざまな工夫をされていることと思います。また感染症予防のための環境消毒や健康観察など、神経を使う場面も多く、お疲れのことと拝察します。そのような中ではありますが、今年度も引き続き「浜中社だより」を発行致します。この「浜中社だより」には浜中社のさまざまな事業にかかわる情報だけでなく、各種大会や教育課程等の情報、そして浜中社の皆様にとってホッと一息つくことができるようなコーナーも設け、紙面の充実を図っていきます。会員の皆様をつなぐ情報便として活用していただければ幸いです。

さて、令和3年4月に全面実施される学習指導要領に向けて、本来ならば、各校におきまして移行期の取組がすすめられていることと思いますが、今年は、年度末に向けて学習の遅れを回復することに重点を置かざるを得ないため、3観点となる学習評価についての研修なども取り組める範囲で準備をすることになるかと思えます。

関プロ研究大会（横浜大会）については、新型コロナウイルスの感染症の影響を踏まえて今年度の開催は難しいと判断し、県中社研研究大会と兼ねて令和3年度に開催する方向で調整を進めております。詳細がわかりましたら、改めてご案内いたします。

\*\*\*浜中社研究総会（書面総会）のご意見より\*\*\*

## 〇浜中社書面総会の結果について

書面総会の結果につきましては、すでに6月29日付の通知で各校にお知らせいたしました。議事について「会長一任」という提案をさせていただきましたが、126校436名の会員の皆様からご賛同いただき、令和2年度の活動をスタートすることができました。皆様のご協力に感謝いたします。

お預かりした回答の中でいくつかご意見を寄せていただきました。研究会としての見解をまとめさせていただきましたので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

## 〇【ご意見ご質問の要旨】

① e-職員録もありますので、会員名簿は不要ではないでしょうか？ これまで一度も利用したことがありません。

➡ 会員名簿はおもに区内の研究推進委員の方や行事担当者の方々が、教科研究会の連絡や社会科作品展への協力を依頼する際に活用しています。すべての会員にとって役に立つわけではないかもしれませんが、現在の活用状況を含め、より効率的な会員名簿の作成に努めてまいります。

②会報は印刷する必要はないと思います。PDFにしてメールで配信すればよいと思います。

➡一年間の研究成果をまとめたものとして、毎年3月に研究会報を発行しています。一年間の記録として保管するだけでなく、会員の皆様の授業づくりの参考にしていただくことを目的としています。より活用しやすい内容を工夫していきたいと思ひますし、ご提案いただいたPDF等の対応についても検討していきたいと思ひます。

③今夏は、中学校教科書の採択が行われます。以前は、横浜市は学校票があり、各学校に教科別に自校生徒にふさわしい教科書を決定し、各区に実態に即した教科書を採択していました。ところが、全市一斉採択に変更され、6人の教育委員による、しかも同票の場合、教育長がもう一票を入れることが出来る採択方式で採択されています。社会科部会として、かつてあった教科書研究、又は研修を行う予定はないのですか。また、ないとするとその理由は何ですか。また、現場教員から採択に向けて非公表の調査委員が選ばれて教科書の比較検討を行い委員会に答申を出しますが、その現場教員の声、審議会答申を尊重するように求めることはしませんか。また、各区図書館等で開かれる予定の教科書展示会への参加を呼びかける事はしませんか。今後4年間の社会科授業を展開するにあたって非常に重要なことであると考えます。宜しくご検討ください。

➡貴重なご意見をありがとうございました。ご指摘の通り、以前は学校票というものがあり区ごとに投票をしていました。そして、その結果を踏まえて教育委員が判断して採択していました。現在は全市一括採択方式となっています。

周知のように、社会科の授業の基本は「教科書の内容を教えるのではなく、教科書を使って何を教えるのか」と言われています。私たち社会科の担当者として重要なことは、教材研究を積み重ねた上で「この授業で何を生徒に伝えたいのか、何を生徒に考えさせたいのか」ということであると考えられます。浜中社では、関東ブロック社会科教育研究大会に向けて、授業者の問題意識を重視し、この問題意識を授業づくりの出発点として進める取組を重ねてまいりました。

また、特別委員会である「授業づくり委員会」においても、さまざまな角度から社会的事象をとらえる目を養うことを目的として、書籍を題材にしたディスカッションを積み重ねております。授業者である私たちが教科書や指導書の内容のみに留まらず、幅広い知識と様々な考え方を共有することに努めております。今までに取り上げた書籍の例を次に示します。

- ・地政学入門（曾村保信著・中公新書）
- ・憲法という希望（木村草太著・講談社現代新書）
- ・生きて帰ってきた男（小熊英二著・岩波新書）
- ・欲望の資本主義（丸山俊一著・東洋経済新報社）
- ・タテ社会の人間関係（中根千絵著・講談社現代新書）
- ・子どもの貧困（阿部彩著・岩波新書）

今後もこのような活動を継続していきたいと思ひますので、多くの会員のご参加をお待ちしております。また市教育委員会からは、今年度の教科書採択に向けて各区で1校を会場に設定して教科書を展示し、区内の先生方が閲覧できる機会を設けるとの連絡を受けています。会員の皆様が積極的に足を運んでくださることを期待しております。

## 掲示板

### ☆☆今後の浜中社活動について☆☆

#### ●冬季講演会（市教委と共催） 令和3年1月開催予定（会場・内容は未定）

令和3年度に開催が延期となった関ブロ研究大会を踏まえ、新学習指導要領全面実施に向けた私たちの教育実践に役立つ内容を考えています。詳細が決まり次第、ご案内いたします。

#### ●浜中社情報共有の場について

コロナ禍ではありますが、会員の皆様と授業や教材についての情報を共有する場が設定できればと考えています。オンラインで行う方法を検討しています。良いアイデアがありましたらお寄せください。